

北海道各地から産出する黒曜石  
その69

## ～黒曜石の原産地(噴出源) その3～

### (13)留辺蘂地域

留辺蘂地域では、2つの組成グループに分類される。ケショマップ川、武利川、セノ沢それぞれの  
上流域に鮮新世末期～更新世にかけて噴出したとされる武利溶結凝灰岩がひろく分布している。  
現地調査で確認できたように、1,019mのピークとする山の標高約810～850m付近に上下2  
枚の黒曜石溶岩の層が見られる。従って、この周辺が留辺蘂Ⅰ・Ⅱ組成グループの噴出源に相当す  
る。

### (14)豊浦地域

豊浦地域では、 $0.13 \pm 0.03$ Maに噴出した洞爺カルデラに起因する火砕流堆積物中(奥村ほか、  
1984)に黒曜石を確認できる程度であり、噴出源は明らかでない。

### (15)釧路地域

釧路地域では、2つの組成グループに分類される。筆者による現地調査で、釧路Ⅰ組成グループ  
は、更新世前期の釧路層群中の軽石を主体とする火砕流に関与していると考えられる。このため、  
この火砕流を発生させた噴出源が黒曜石の原産地と推定できる。これに対し釧路Ⅱ組成グループ  
は、クチョロ原野地区の久著呂川Aから河川の礫として採取でき、更に上流域には、“弟子屈火山”  
の基底火山碎屑物中に黒曜石の破片を含む(佐藤・垣見、1967)ことから、噴出源はこの火山に関  
係していると推定できる。

### (16)中川地域

中川地域で採取された黒曜石は、近辺にあるような雄武産や名寄・下川産などのような原産地で  
はなく、これまで北海道内では知られていない未知の噴出源を意味しており、そこから運搬され堆  
積した黒曜石の可能性を示唆している。今後、周辺における同一年代の地層に焦点を絞って天塩  
川流域における黒曜石の分布を詳細に調査すれば噴出源が特定できるかもしれない。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki

(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

